

技術開発部報告書情報シート

記入年月日: 2009年6月17日

情報No.	K-09-3	情報区分	プラ処理協研究報告		
題名 報告書名	東京都一般廃棄物におけるプラスチック製容器包装の分別区分変化に伴うLCA調査 中間報告書				
報告年月	2009年3月	ページ数	50	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式	サマリサイクル、マテリアルサイクル、分別収集法	要素技術	LCA、環境負荷評価
樹脂類別	容リプラ、プラスチック一般	化学物質名	
形状別	容器包装	用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>東京都二十三区の収集一般廃棄物の種類と量の調査と、今後の推移について検討を行った。全区の全域で、資源ごみとして収集されていないプラスチックの分別区分が、不燃ごみから可燃ごみに変更になるのは2009年3月であり、現時点で公開されているのは2007年度末までの統計データであった。</p> <p>今回は可燃ごみと不燃ごみの収集量合計の経年変化を、2004年度から2007年度にかけて解析し、次いで今後の収集一般廃棄物の処理法の推移の予想として、2007年度を基準にして4つのシナリオを設定しシミュレーションを行った。</p>
調査研究結果	<p>経年変化の解析結果は、全体の収集量は毎年減少傾向にあり、プラスチックの埋立量は2006年度から2007年度にかけて6.3万トン（30%）減少していることが分かった。</p> <p>また今後の収集一般廃棄物の処理法の推移の予想としてのシナリオは、(1)全量埋立、(2)可燃分を全て焼却処理してエネルギー回収する場合（TR）、(3)TRと容リ法に基づくリサイクル処理の併用、(4)上記(3)で容リ法に基づくリサイクル処理量を更に増大する場合である。(1)は埋立地不足の解消の点、CO₂換算排出量の点から好ましくなく、(3)(4)は容リ法に基づくリサイクルが増大すると、エネルギー回収量が増える利点はあるものの、LCA評価項目以外の問題ではあるが、処理費の高騰、分別保管施設の確保等の問題があり、実用上必ずしも好ましくない。現状ではLCAでは評価されていない、埋立地不足の解消、伝染病予防等の衛生上の観点からも可燃分を全て焼却処理してエネルギー回収するサマリサイクル（TR）は、バランスの取れた処理法であると言える。</p>
備考	